



リレートーク #180



グローバル時代を担う リーダー

芳賀 日登美

ストラテジック コミュニケーション R I
取締役社長

今年も、ようやく成績をつけ終わってホッとしているのは、筑波大学の大学院の話。2007年から、毎年、システム情報工学研究科のMBAとMPPの学生の必修科目「リーダーシップ」を受け持つようになって多くの月日が流れた。筑波の大学院生に占める外国人留学生の割合が年々増加している。昨年はキルギス、今年はインドネシアやベトナムからの留学生に加えて、遠くペルーからの留学生もいる。彼らの多くは国費留学生であり、とても優秀だ。中国からの留学生が主流で、日本人学生は11名という少数派である。授業は理論を中心とした講義と具体的なテーマに沿った演習という組み合わせで、質問も活発で演習はいつも隣の教室から、必ずドアを閉めておいてくださいと念を押されるほどだ。

最近特に顕著なのが、留学生のコミュニケーション能力の高さとハングリー精神の旺盛さである。中でも国費で来ているペルーとインドネシアの留学生の能力は秀でている。礼儀正しさも昔の日本の学生を見るようだ。

先日、日経新聞に【人事トップが求める新卒イメージ調査】の結果が掲載されていたが、1位はコミュニケーション能力、2位はチャレンジ精神とあった。まさに先ほどの留学生に感じた能力こそ、今企業が求めるものそのものである。当然問題意識も非常に高く、「次代を担う」という言葉が、とても的確に彼らを表していると感じる。

一方、あくまで私が担当している学生の範囲を出ないが、日本人学生に貪欲さが感じられないことや提出物に見る配慮の無さが気に掛かる。中には本当にリーダーシップを発揮して、良い手本となってきている日本人学生もいる。しかし、大半は残念ながらA評価を付けることが困難なのが実態であり、実に残念である。言い過ぎかもしれないが、覇気という言葉が似合う学生は少ない。今は学生という甘えがあることも事実で、今後グローバル時代を担える人物に成長してくれることを願うばかりである。そしてその一助となる講義をすることが今の私の責任だと思っている。

次回リレートーク：長瀬 朋彦 (イマジカ・ロボット ホールディングス 取締役社長)